

令和3年度第1回学校評価及び全国学力・学習状況調査の結果について

## 1 第1回学校評価アンケート

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のもとで教育活動を実施いたしました。そのような中で、子供たちは、どのようにしたらみんな楽しく過ごせるか、工夫しながら学校生活を送っています。保護者・地域の皆様のお力添えがあって、子供たちはよく育っています。

今年度から「上宇部中学校区小中一貫教育グランドデザイン」にあるSDGsの4つの視点を柱とした取り組みと本校の学力向上等の目標をもとに評価項目を設定しています。

学校評価アンケートについては、今年度も、大変肯定的な評価をいただきました。しかし、数値だけにとらわれることなく、良い実践は今後も継続し、改善が必要なものについては、しっかり取り組んでまいります。それぞれの回答をもとに評価結果の概要をお知らせいたします。（詳細は、別紙参照）

### 【児童の回答結果】

○タブレット端末を活用した学習について、わかりやすいという肯定的な意見が非常に高かった。端末やアプリケーションソフトの使い方にも少しずつ慣れてきており、文房具の一つといった感覚に近づいてきていると考える。

○学校に行くのが楽しい、給食をおいしく食べている、掃除をがんばっている、言葉遣いに気を付けているなど学校生活に充実感を感じ、自己肯定感の高い子どもが多い。子どもたちの社会性や生活習慣を学校、家庭が連携・協働のもと育てていることが重要で、これからも継続して推進していくことが大切である。

●子どもたちの表現力（書くこと）と読書、体力向上については、学力学習状況調査や体力調査の結果と連動しており、子どもたち自身も課題として捉えている。本校の教育活動全般を通して、これらの課題の改善、向上に、これまでの指導・支援に加えてICT機器も活用したい。

●実施可能な地域行事が限られている状況ではあるが、子どもたちと保護者が一緒に地域行事へ参加し、持続可能な地域づくりに参画できるよう、啓発するとともに、高学年児童が自分たちの学びを生かした地域貢献活動を考え、積極的に地域学校協働活動にSDGsの視点で参画できるように支援する。

### 【保護者の回答結果】

○新型コロナウイルス感染症対策により学校や地域ので子どもたちの姿を直接見ることができない状況の中で、多くの家庭で子どもたちの学校での生活の様子を保護者と子どもたちが共有できていることは評価できる。学校、学年だより、ホームページ等による子どもたちの学ぶ姿の発信を引き続き行っていきたい。

○朝食を食べる児童、給食をおいしく食べられている児童が多いことから、食育を学校、家庭で連携して推進できていることは高く評価できる。

●読書、体力向上については、本に慣れ親しんだり、読書量を増やしたりするための手立てや外遊びの励行などこれまでも取り組んできているので、継続して指導・支援し向上につなげたい。

### 【地域の方々の回答結果】

○新型コロナウイルス感染症対策により学校行事や会議等が制限される中で、ホームページやが学校だよりなどによる情報発信が地域と学校をつなぐ有効なツールとなっている。

●地域における子どもたちの生活態度や言葉遣いについては、高い評価を得ているが一方で挨拶については引き続き学校や家庭での取組が必要である。

●実施可能な地域行事が限られている状況ではあるが、家庭の地域行事への参加について学校が啓発していく必要がある。

#### 【教職員の回答結果】

○ICT 機器を活用した授業づくり研修に取り組むとともに、普段の授業の中でも積極的に活用している。教職員の活用意識と子どもたちの学習のわかりやすさが同調していることから取組の効果が得られていると考えられる。

○子どもたちの表現力(書くこと)については、学力向上プランの国語科の柱となっており、実証的な指導・支援を継続していく必要がある。

## 2 全国学力・学習状況調査

### (1) 調査結果

「国語科」・・・平均正答率について全国、山口県の正答率よりも高い

「算数科」・・・平均正答率について山口県の正答率よりも高く、全国平均と同程度

### (2) 現状分析と対策

#### ア. 現状について

- ・国語は要約して記述する力は大変良くできている。条件に沿って資料を活用する問題に若干の課題がある。漢字・文法(修飾語・被修飾語)の活用が十分ではない。
- ・算数は全般的に基礎基本についておさえられている。式を用いて説明していく問題が少し低い傾向がある。
- ・家庭において自分で計画をして勉強できる児童の人数が少ない。宿題はきちんとしているが、自主的な学習があまりできていない。
- ・ICT 機器を活用して学習に取り組んでいる児童は、県平均の 3.5 倍である。算数が好きな児童が全体の 5 割程度いる。

#### イ. 対策について

- ・国語や算数において、教員が考えや答えを記述するときに、論理的に思考の流れを記述できる手立てを指導していく。
- ・国語の漢字や文法の活用や算数の式の計算等は、日ごろの児童の記述を常に意図して教師が評価していく。
- ・学習することが大事だと思う児童は多く ICT 活用にもたけているので、タブレット端末を持ち帰る等をして自発的な学習を促すようにしたい。

### (3) 学力向上の取り組み(職員研修)

#### ア. 授業力向上実践研究 (ICT 活用)

- ・山口大学教育学部の先生方による授業参観やチャット等による個別指導
- ・校内授業公開における一人1授業及び管理職が入ったブロック協議
- ・ミニ研修会による ICT 活用に係る全教員のスキルアップ
- ・宇部市教委による ICT 環境の支援及び学年での ICT 活用に係る協議の日常化

#### イ. 教科担任制への準備

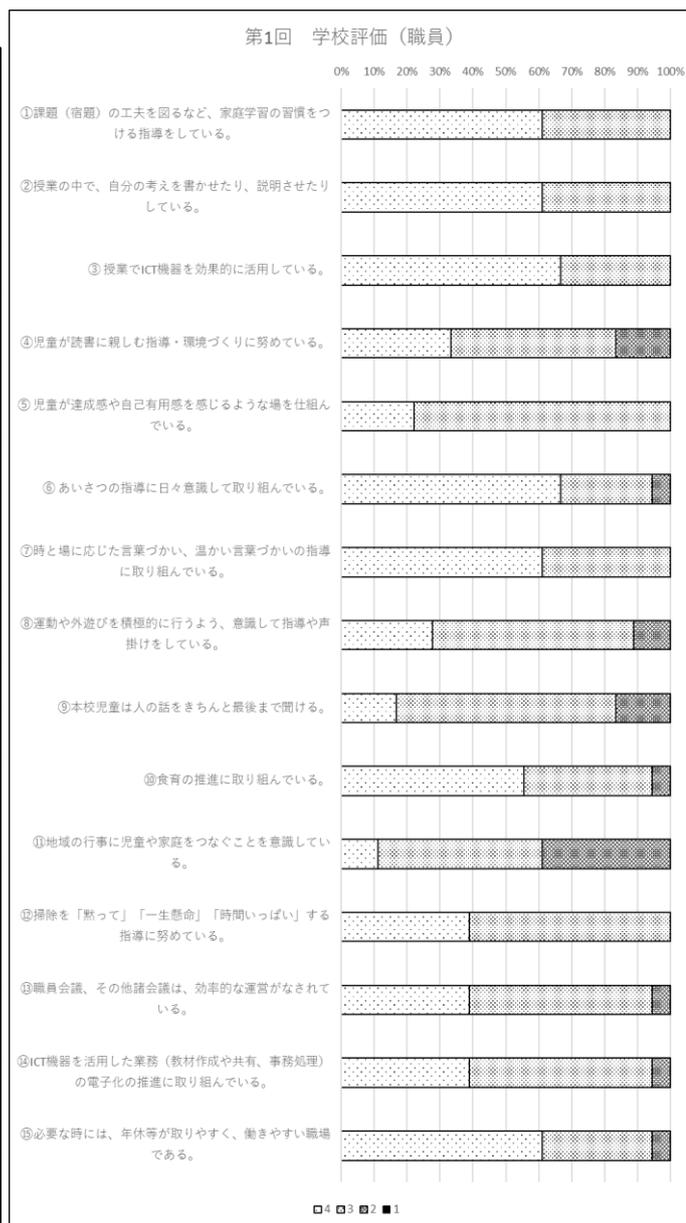
5年、6年を対象に2学期は体育、音楽、理科を実施し、3学期については他教科を予定。

#### ウ. 児童の学習支援サービス(eライブラリ)の活用

- ・個別最適化された学習支援(学校・家庭学習連携)の推進。

第1回 学校評価アンケート（職員）

		4点満点	肯定率
	学び	①課題（宿題）の工夫を図るなど、家庭学習の習慣をつける指導をしている。	3.6 100%
		②授業の中で、自分の考えを書かせたり、説明させたりしている。	3.6 100%
		③授業でICT機器を効果的に活用している。	3.7 100%
		④児童が読書に親しむ指導・環境づくりに努めている。	3.2 83%
		⑤児童が達成感や自己有用感を感じるような場を仕組んでいる。	3.2 100%
	心と体	⑥あいさつの指導に日々意識して取り組んでいる。	3.6 94%
		⑦時と場に応じた言葉づかい、温かい言葉づかいの指導に取り組んでいる。	3.6 100%
		⑧運動や外遊びを積極的に行うよう、意識して指導や声掛けをしている。	3.2 89%
		⑨本校児童は人の話をきちんと最後まで聞ける。	3.0 83%
		⑩食育の推進に取り組んでいる。	3.5 94%
	絆	⑪地域の行事に児童や家庭をつなぐことを意識している。	2.7 61%
	環境	⑫掃除を「黙って」「一生懸命」「時間いっぱい」する指導に努めている。	3.4 100%
		⑬職員会議、その他諸会議は、効率的な運営がなされている。	3.3 94%
		⑭ICT機器を活用した業務（教材作成や共有、事務処理）の電子化の推進に取り組んでいる。	3.3 94%
		⑮必要な時には、年休等が取りやすく、働きやすい職場である。	3.6 94%



○ICT機器を活用した授業づくり研修に取り組むとともに、普段の授業の中でも積極的に活用している。教職員の活用意識と子どもたちの学習のわかりやすさが同調していることから取組の効果が得られていると考えられる。

○全般的に教職員の指導に係る意識は高く、子どもたちの評価もそれに沿ったものになっているが、読書、運動については更なる指導・支援を要する。特に「地域の行事に児童や家庭をつなぐことを意識している。」の項目については、地域行事等の実施が可能になれば、子どもたちや家庭への啓発をしっかりと行っていきたい。

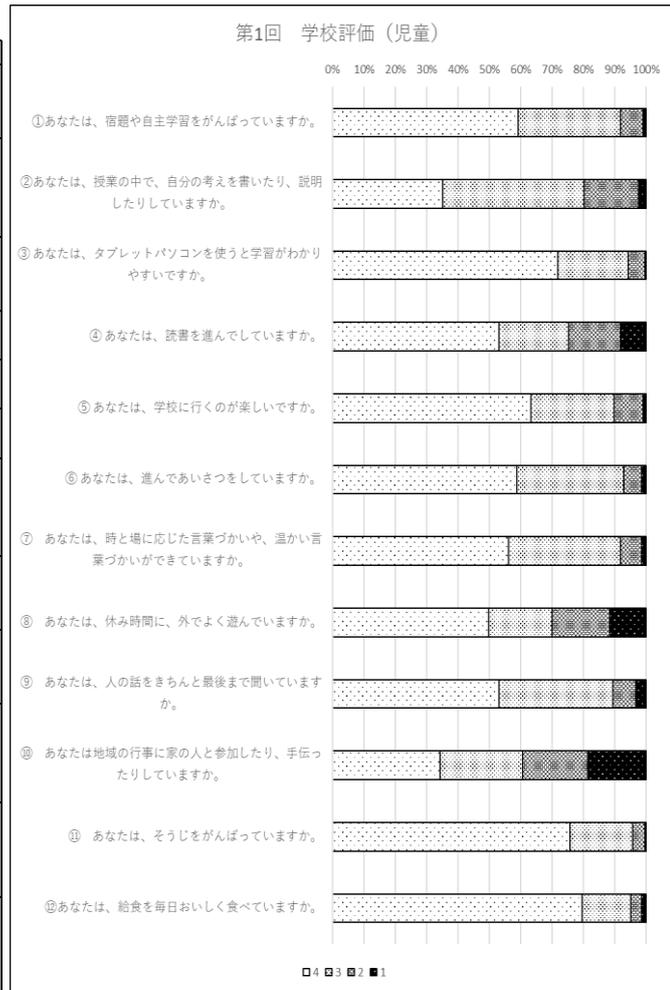
○子どもたちの表現力（書くこと）については、学力向上プランの国語科の柱となっており、実証的な指導・支援を継続していく必要がある。

○会議の効率的な運営、業務のデジタル化については、取組上ではあるが実感を伴う効率化が進んでいると考えられる。

○働きやすい職場づくりとして、休みを必要に応じて取りやすいという意識が96%と高い。年休消化率等を用いて感覚的なものだけでなく数値的に検証を行い、更なる職場改善につなげたい。

第1回 学校評価アンケート（児童）

		4点満点	肯定率
	学 び	①あなたは、宿題や自主学習をがんばっていますか。	3.5 92%
		②あなたは、授業の中で、自分の考えを書いたり、説明したりしていますか。	3.1 80%
		③あなたは、タブレットパソコンを使うと学習がわかりやすいですか。	3.7 94%
		④あなたは、読書を進んでいますか。	3.2 75%
		⑤あなたは、学校に行くのが楽しいですか。	3.5 90%
	心 と 体	⑥あなたは、進んであいさつをしていますか。	3.5 93%
		⑦あなたは、時と場に応じた言葉づかいや、温かい言葉づかいができていますか。	3.5 92%
		⑧あなたは、休み時間に、外でよく遊んでいますか。	3.1 70%
		⑨あなたは、人の話をきちんと最後まで聞いていますか。	3.4 89%
		⑩あなたは地域の行事に家の人と参加したり、手伝ったりしていますか。	2.8 61%
	絆	⑪あなたは、そうじをがんばっていますか。	3.7 96%
	環 境	⑫あなたは、給食を毎日おいしく食べていますか。	3.7 95%



○タブレット端末を活用した学習について、わかりやすいという肯定的な意見が非常に高かった。端末やアプリケーションソフトの使い方も少しずつ慣れてきており、文房具の一つといった感覚に近づいてきていると考える。調べ学習や学習のまとめ等、さまざまな活用場面が授業の中で展開されており、教職員一人ひとりの「ICT機器を活用した授業づくり」に向けた研修の成果が現れている。

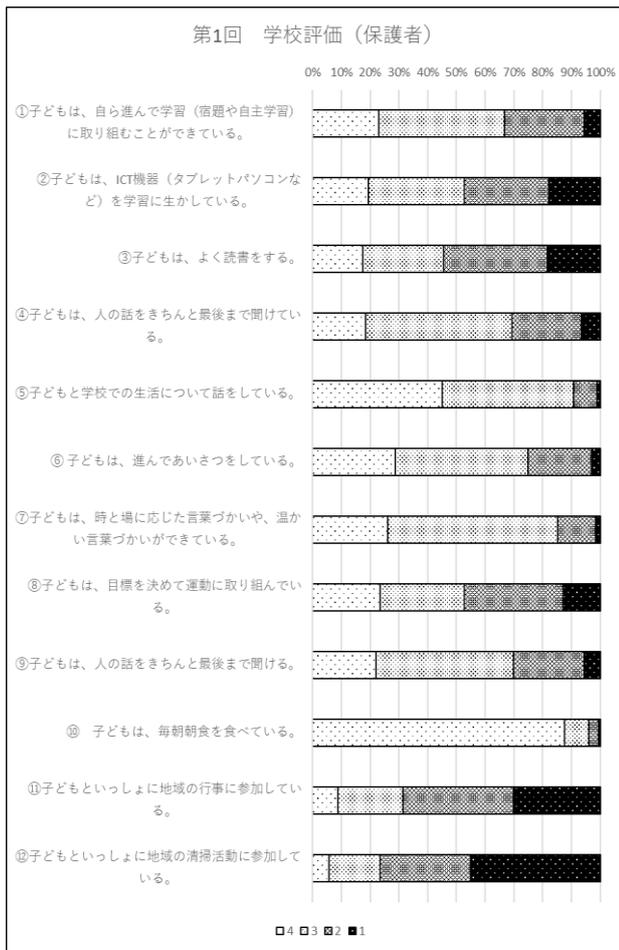
○学校に行くのが楽しい、給食をおいしく食べている、掃除をがんばっている、言葉遣いに気を付けているなど学校生活に充実感を感じ、自己肯定感の高い子どもが多い。子どもたちの社会性や生活習慣を学校、家庭が連携・協働のもと育てることが重要で、これからも継続して推進していくことが大切である。

●子どもたちの表現力（書くこと）と読書、体力向上については、学力学習状況調査や体力調査の結果と連動しており、子どもたち自身も課題として捉えている。本校の教育活動全般を通して、これらの課題の改善、向上に、これまでの指導・支援に加えてICT機器も活用したい。

●実施可能な地域行事が限られている状況ではあるが、子どもたちと保護者が一緒に地域行事へ参加し、持続可能な地域づくりに参画できるよう、啓発するとともに、高学年児童が自分たちの学びを生かした地域貢献活動を考え、積極的に地域学

第1回 学校評価アンケート（保護者）

		4点満点	肯定率
	学 び	①子どもは、自ら進んで学習（宿題や自主学習）に取り組むことができる。	2.8 67%
		②子どもは、ICT機器（タブレットパソコンなど）を学習に生かしている。	2.5 53%
		③子どもは、よく読書をする。	2.4 46%
		④子どもは、人の話をきちんと最後まで聞いている。	2.8 69%
		⑤子どもと学校での生活について話をしている。	3.3 91%
	心と体	⑥子どもは、進んであいさつをしている。	3.0 75%
		⑦子どもは、時と場に応じた言葉づかいや、温かい言葉づかいができています。	3.1 85%
		⑧子どもは、目標を決めて運動に取り組んでいる。	2.6 53%
		⑨子どもは、人の話をきちんと最後まで聞ける。	2.9 70%
		⑩ 子どもは、毎朝朝食を食べている。	3.8 96%
	絆	⑪子どもとっしょに地域の行事に参加している。	2.1 31%
	環 境	⑫子どもとっしょに地域の清掃活動に参加している。	1.8 24%



○新型コロナウイルス感染症対策により学校や地域ので子どもたちの姿を直接見ることができない状況の中で、多くの家庭で子どもたちの学校での生活の様子を保護者と子どもたちが共有できていることは評価できる。学校、学年だより、ホームページ等による子どもたちの学ぶ姿の発信を引き続き行っていきたい。

○朝食を食べる児童、給食をおいしく食べられている児童が多いことから、食育を学校、家庭で連携して推進できていることは高く評価できる。

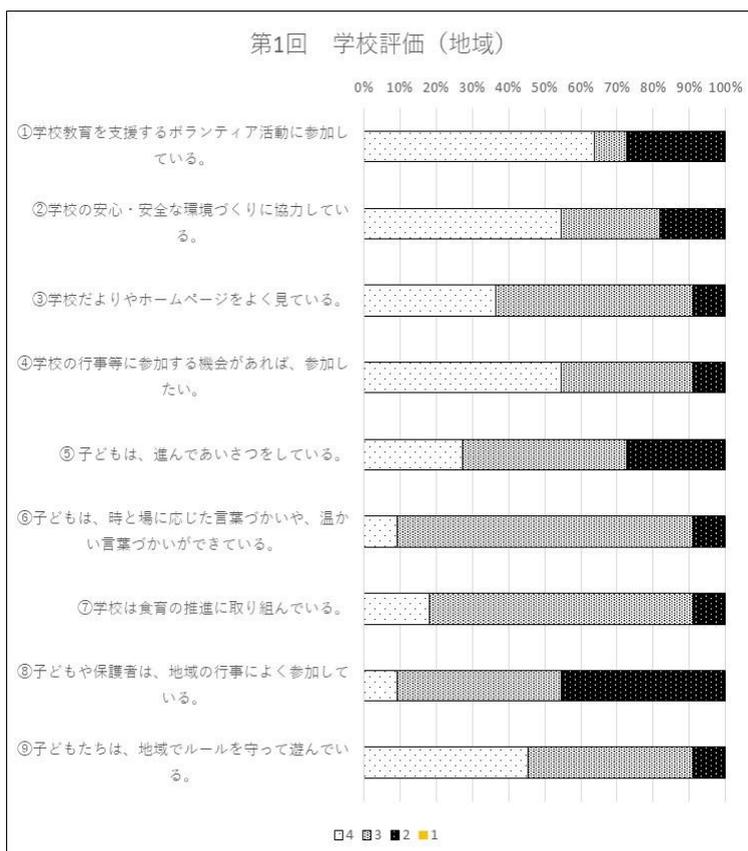
●GIGAスクール構想に基づく一人一端末整備が進み、本校でもICT機器を活用した授業改善が進んでいる。前年度までと同様にICT機器を活用した子どもたちの学習の様子を発信していきたい。

●読書、体力向上については、本に慣れ親しんだり、読書量を増やしたりするための手立てや外遊びの励行などこれまでも取り組んできているので、継続して指導・支援し向上につなげたい。

●実施可能な地域行事が限られている状況ではあるが、子どもたちと保護者が一緒に地域行事へ参加し、持続可能な地域づくりに参画できるよう、啓発していく必要がある。

## 第1回 学校評価アンケート（地域）

	4点満点	肯定率
①学校教育を支援するボランティア活動に参加している。	3.4	73%
②学校の安心・安全な環境づくりに協力している。	3.4	82%
③学校だよりやホームページをよく見ている。	3.3	91%
④学校の行事等に参加する機会があれば、参加したい。	3.5	91%
⑤子どもは、進んであいさつをしている。	3.0	73%
⑥子どもは、時と場に応じた言葉づかひや、温かい言葉づかひができています。	3.0	91%
⑦学校は食育の推進に取り組んでいる。	3.1	91%
⑧子どもや保護者は、地域の行事によく参加している。	2.6	55%
⑨子どもたちは、地域でルールを守って遊んでいる。	3.4	91%



○新型コロナウイルス感染症対策により学校行事や会議等が制限される中で、ホームページやが学校だよりなどによる情報発信が地域と学校をつなぐ有効なツールとなっている。

○県や市のステージやレベルに応じて、実施可能な行事等について地域と学校が連携して推進できるよう、準備を進めたい。

●地域における子どもたちの生活態度や言葉遣いについては、高い評価を得ているが一方で挨拶については引き続き学校や家庭での取組が必要である。

●実施可能な地域行事が限られている状況ではあるが、家庭の地域行事への参加について学校が啓発していく必要がある。